

## 日本英語教育史学会 会報

295

2019 年 10 月 18 日

**HiSELT** Society for Historical Studies of English Learning and Teaching in Japan

日本学術会議協力学術研究団体 日本英語教育史学会

発行人 日本英語教育史学会 (代表: 江利川春雄)

事務局 〒727-0023 広島県庄原市七塚町 5562  
県立広島大学 庄原キャンパス 河村和也研究室  
tel: 0824-74-1727 fax: 0824-74-0191  
e-mail: membership@hiset.jp会費納入口座 (名義人: 日本英語教育史学会)  
ゆうちょ銀行【振替口座】00150-3-132873  
ゆうちょ銀行〇一九店【当座口座】0132873学会公式ウェブサイト [www.hiset.jp](http://www.hiset.jp)

## 第274回研究例会報告

2019 (令和元) 年 9 月 21 日 (土), 県立広島大学のサテライトキャンパスひろしま (広島市中区) において第 274 回研究例会が開催されました。参加者は 11 名でした。

例会では 2 本の発表が行われました。はじめに, 研究発表として山田昌宏氏 (日本英語教育史学会会員) が「新制中学校・高等学校発足時の岡山県中学校・高等学校における英語教員の実態」というタイトルでお話しされました。続く「自著を語る」では, 指定討論者に上野舞斗氏 (関西大学大学院博士課程) を迎え, 提案者の安部規子氏 (久留米工業高等専門学校) が「明治後期の文部省留学生の生活について: 『杉森此馬英国留学日記 明治 37 年 1 月 1 日—12 月 31 日』を素材として」の発表を行いました。司会は馬本勉氏 (県立広島大学) でした。以下に参加者の感想を掲載しますのでご参照ください (①は山田氏, ②は安部氏及び上野氏の発表への感想です)。

◇ ◇ ◇

◆①今から 45, 6 年も前の大学時代, 松村先生が英語教育史の授業で, 終戦後, 新学制発足のころのことがすでに分からなくなってきている, 当事者をご存命のうちに調べておくことが必要だと強調されていましたが, 本日のご発表をうかがって, まさにその通りだと思いました。当時最若手の教員だった方々も第一線を退かれて久しく, 聞き取り調査なども難しくなってきましたが, 当時生徒だった方々への聞き取りも含め, ぜひご研究を続けていただき, この時期の実相解明にお努め下さればと願っております。 (Dragon)

◆①昭和 23 年度に比べ平成 28 年度は生徒数は減っているが英語教師の数は増えている。その理由は 1 学級の定数が減り学級数の増加, そして高校への進学率の増加等であろう。との理由はとても納得のいくものでした。これに加え少人数制クラスや習熟度別クラス等もある

と思います。お話を伺いながら, この少人数制や習熟度別クラスはいつからどのような経緯で始まったのか, ということに興味を持ちました。中学, 高校の英語教師の男女比や年齢層等も時代背景等がみえてきて興味深かったです。ありがとうございました。 (Rainbow)

◆①定年退職後も, 岡山県における戦後英語教育史を定点観測的に継続しておられる熱意に, 深く感銘を受けました。戦後初期の英語担当教員の実態に迫るため, コピーも許されない資料を緻密に分析されたとのこと。一つひとつの数字の裏に, どれほどの努力が隠されているかを思うと, 襟を正されます。文部省の統計では, 新制発足当初に正規の英語教員免許を持っていた英語担当者は 1 割程度だったようですが, 岡山県ではどうだったのか。次は県庁秘蔵の文書群が手招きしているかもしれません。健康に留意され, 前進を続けてください。 (みかん舟)

◆①岡山県の中学校や高校の学校数や生徒数など、数に注目して時代の変化、その背景を知ることができました。最後の **Jack and Betty** の教科書を使った授業の再現ビデオが当時の英語教育スタイルを顕著に表しているように思えて、大変興味深かったです。(村上加奈)

◆①昭和 23 年の岡山県の中学校・高等学校の英語教員の実態調査報告を拝聴し、当時の岡山県の英語教育の正確な実像を把握することが出来ました。「教員の採用のあり様」についてお尋ねしましたが、適切であったかどうか反省しております。先生のご発表は **Jack and Betty** (開隆堂) 世代の一人として懐かしくもあり、大いに勉強させていただきました。

(もみじまんじゅう)

◆①終戦直後、中等英語教員が不足して英語が開講されなかったり、他教科の教員が担当したりしたというのはよく耳にする話です。しかし、これを文部省統計等ではなく、あえて労の多い、地方の実態という観点から取り組まれたことに頭が下がりました。当時のデータが興味深かったのはもちろんですが、現在の状況と対比することで、現在の問題点や異質さも浮き彫りになった気がいたしました。英語教育史を研究することの現代的意義を示してくださるご発表でした。

(上野舞斗)

◆②日記のように読み手を意識されない主観で書かれた書物を解読し、分析することは、改めて大変時間がかかると苦労の程を、本を読んで、発表を聞いて感じました。1つ1つひもとくように、先生が分析し、解説されたことは、今後の英語教育史において大変価値のあることだと感じました。(村上加奈)

◆②ご高著の出版に至るまでのご苦労が大変なものであったことがよく伺えるお話しでした。杉森此馬のお母さんの情報も有り難かったです。指定討論者も本書を徹底的に読んだうえで論題の設定をされており、実り豊かな意見交換の場となりました。(もみじまんじゅう)

◆②昔の手書きのものを翻刻する仕事は、個人での読解にとどまる場合は少々不明の箇所があってもそのままに放っておくこともできますが、これを公開するとなると不明箇所を最小限に抑えねばならないため大変な作業になる。それに止まらず原文に英訳、和訳を添えるという読者にとって情報性の高いものを刊行されたことに敬意を表します。背景情報にかかる注や図版が適切に施されていることも本書の付加価値を高めており、英語教育史・英学史の研究者ばかりでなく、一般の読者にとっても **readable** なものになっていると考えます。本書刊行にあたっては自らの足で杉森の足跡を辿られたということで、ご発表では、その辺りのことも含めて、いわゆる裏舞台をもう少し伺えればと思いました。なお、今後さらに研究の範囲を広げられて、福岡県英語教育史のまとめられることを期待しております。(Dragon)

◆②広島高師の最初の英語教授、音声学でも大きな業績のあった杉森此馬の留学日記を翻訳し出版された経緯を伺いました。明治時代に書かれた手書きの英文を解読するのは相当、大変であったでしょうが、解読された方にしか得られなかった情報もあるのではないかと思います。本当にお疲れ様でした。指定討論者の上野氏の問題提起はとても素晴らしかったと思います。ありがとうございました。(Rainbow)

◆②明治期の日記を解読すること、それを英訳することがどれほど大変か。心から敬意を表します。パーマーも高く評価していた偉大な英語音声学・杉森此馬は、謎多き人物。このたびのご本は、日記から彼の足跡に光を当てたと同時に、明治期の留学生文化史としても貴重です。留学先でヘンリー・スイートらに学んだことが、彼の英語教育論にどう影響したかなど、さらなる謎に挑戦してください。上野先生のプレゼンおよび問題提起もお見事でした。(みかん舟)

## &lt;発表を終えて&gt;

山田 昌宏 (日本英語教育史学会会員)

この度は研究例会で発表の機会をいただきありがとうございました。3年前に「自著を語る」でお話しして以来なので、緊張いたしました。このテーマで調べて見ようと思いついたのは、私の地区の中学校に発足以来10年間英語の専門の先生がいなかったということです。当時新制中学の英語教員確保は大変困難を伴ったようで、約3割の英語担当者は臨時免許状の助教諭だったことから推察できます。また、出身校も高校の93校に対し202校もあり、「かき集めた」感がします。英語教員養成とは無縁の学校、特に旧制中学校、女学校、実業学校の卒業生もかなり見られます。

例会でもお話ししたように私事になりますが、私の入学時に初めて東京外語出身の先生が赴任されました。その3年間の指導の成果の一端を例会でお示しましたが、私自身もそのお陰で英語教師の道に進めました。特に初めて英語に接する中学校の指導の重要さは論も待ちません。この調査は岡山県だけのものですが、フロアの川嶋先生から1955年の鳥取県の資料が『英語教育』にあるとの貴重なご指摘をいただきましたので当たってみたいと思います。今後はできれば新制中学・高校発足後20年前後の実態を調べてみたいと思っています。



## &lt;発表を終えて&gt;

安部 規子 (久留米工業高等専門学校)

今回の研究例会におきまして、『杉森此馬英国留学日記 明治37年1月1日-12月31日』に関する発表の機会を杉森と深い縁のある広島の研究例会で与えていただき、ありがとうございました。また指定討論者を引き受けて下さった上野舞斗先生には拙著を熟読して下さい感謝しております。上野先生が作成下さった杉森をめぐる人物関連図は杉森の広い交友関係をよく示していて、その斬新なアイデアに感銘を受けました。

当日フロアの先生方から杉森の空白の旅順時代に関する調査課題をいただいた他、それ以前にも、3つのPassは「塔嶺」「魔天嶺」「黄土嶺」ではないか、写真に写っているのは岡倉由三郎ではないか、イギリスではDrやMrにピリオドはつけない、Henry Sweetはprofessorにはなれなかった人だ、Stratford-on-AvonとStratford-upon-Avonはどう区別するか、杉森此馬の母はどのような人物か、など多くのご教示やご質問をいただき、ありがとうございました。

私にとっては、ストラットフォード・オン・エイボンへの小旅行を始めとする平田喜一(禿木)との交流が最も印象深い部分ですが、淡々とした留學生活の記述の中に、思わぬ英学史的発見の種を見つけていただければ幸いです。



## &lt;発表を終えて&gt;

上野 舞斗 (関西大学大学院博士課程)

指定討論者としての機会を与えてくださった会に御礼申し上げます。これに報いようと、精一杯

努めたつもりですが、力量不足が否めませんでした。それにも関わらず、さまざまな議論が提起されたのは、フロアの先生方、また何より題材そのものに助けられたことによります。

さて、発表では、指定討論者として、題材である安部規子(編)(2019)『杉森此馬英国留学日記: 明治 37 年 1 月 1 日-12 月 31 日』の特徴を次の 3 点から論じました。

- (1) 知られざる留学時代の杉森此馬像を描写
- (2) 明治後期の英国留学生の心境、生活を描写
- (3) 日本人から見た当時の英国の様子を描写

特に(1)・(2)については、杉森の交友関係の広さに驚き、興味を持ち、さまざまな想像を膨らませました。こうしたことができるのも、「日記」という性質によるものでしょう。私は杉森と永野武一郎との関わりに注目して、この点を論じましたが、三者三様の読み方ができます。解説が少し簡単に感じられるという指摘もさせていただきましたが、こうした点を含み考えると、資料をそのまま提示し、杉森の英国留学を追体験してもらった上で、読者に判断を仰ぐというのも本書の良さかもしれません。



#### 訃 報

本学会評議員で神戸大学名誉教授の青木庸效先生のぶかずにおかれましては、9月6日に還浄されました。ここにそのご威徳を偲び、心よりお悔やみ申し上げますとともに謹んでお知らせいたします。

日本英語教育史学会

### 追悼 青木庸效先生

日本英語教育史学会会長 江利川 春雄

日本英語教育史学会評議員の青木庸效先生のぶかず(神戸大学名誉教授)が、2019年9月6日、永眠されました。満86歳でした。謹んでご冥福をお祈りいたします。

青木先生は1933年に兵庫県に生まれ、1956年に神戸大学教育学部四年課程英語科を卒業、翌年に神戸大学文学部専攻生(英米文学専攻)を修了されました。1956年より兵庫県下の中学校に2年、高校に1年勤務されたのち、1959年に神戸大学教育学部の助手、1964年に教養部の講師、1967年に助教授、1979年に教授、1981年の大学院教育学研究科英語科教育講座の発足とともに教授を兼任され「英語科授業論」などを担当されました。教養部の改組により1992年には国際文化学部教授となり、1997年に定年退官、名誉教授とされました。その後は2004年まで神戸松蔭女子学院大学教授を務められ、2017年には永年の功績により瑞宝中綬章を受章されました。

研究業績は英米文学・英語学・英語教育の多岐にわたり、中学・高校・大学の教科書・参考書も数多く書かれています。英語教育関係の著書には以下のものがあります。

『中学英語ハンドブック』(松浪有他編・共著)三省堂, 1973

- 『英語授業学【指導技術論】』(英語教育指導ライブラリー・共編著)三省堂, 1979 (新訂版 1984)  
 『英語科教育: 授業入門』英宝社, 1988  
 『題材から見た英語教科書の変遷』(高校英語ぶっくれっと No.16)三省堂, 1989  
 『年年歳歳』金星堂, 2004 [論文・エッセイ集]

また、英語教育史に関する論考には以下のものがあります。

- 「英語教材の中の題材」『日本英語教育史研究』第 6 号, 1991  
 「『高等科英語』とその周辺」『日本英語教育史研究』第 6 号, 1991  
 「福島プラン」『私家版英語教育ジャーナル・若林俊輔教授退官記念論文集』1995, (「磯尾哲夫とパーマー」と改題し『年年歳歳』に再録)  
 「外国人教師ロイ・スミス」『日本英語教育史研究』第 12 号, 1997 (『年年歳歳』に再録)  
 「敗戦後の英語学習: 極めて個人的な回想」『英語科授業学の今日的課題: 青木庸效教授退官記念論文集』金星堂, 1997 (『年年歳歳』に再録)

私が青木庸效先生に直接ご指導をいただいたのは、神戸大学大学院教育学研究科の研究生・院生だった 1988~91 年度の 4 年間です。私は経済学部を卒業後、大阪の小さな学習塾に勤めていましたが、高校生・浪人生担当の英語講師が突然退社したため、代わりに私が担当することになりました。しかし、英語専攻でもない私に医学部受験生などを指導する力量はありません。そのため、社長から大学院での英語修業を命じられ、紹介されたのが青木先生でした。

やりたくもない英語の勉強のため、研究生として神戸大学まで通ったのですが、マルクスやレーニンばかり読んでいた学生運動家くずれの私を、青木先生は温かく迎えてくださいました。異分野出身の発想を面白がってくださる度量と包容力を、先生はお持ちでした。私もしだいに青木先生のお人柄、教養、学問的造詣に心惹かれ、先生のお勧めにより正規の院生となりました。34 歳のときです。

日本英語教育史学会を紹介してくださったのも青木先生です。初めてお連れ頂いた 1990 年 10 月の拓殖大学での例会は忘れられません。発表者は出来成訓初代会長で、高梨健吉先生、伊村元道先生などキラ星のような先生方と接する機会を頂いたのです。「水を得た魚」になりました。

青木先生との出会いがなければ、私は英語教育界に身を置くことはありませんでした。

書き出したら止まらないくらい、思い出があふれて参ります。

青木先生にもうお会いできないのかと思うと、心に穴が開いたようです。

先生、安らかに眠りください。ありがとうございました。

## )) この先の研究例会・全国大会

- ◆ 第 275 回研究例会 2019 年 11 月 16 日 (土) 京都で開催予定
- ◆ 第 276 回研究例会 2020 年 1 月 11 日 (土) 東京で開催予定
- ◆ 第 277 回研究例会 2020 年 3 月 21 日 (土) 京都で開催予定

→日程や場所は変更される場合があります。その際は会報およびウェブサイトでお知らせします。

研究例会での発表希望者は、(1) 発表希望月、(2) タイトル、(3) 発表概要 (100～200 字程度)、(4) 使用予定機器、以上の 4 点を明記の上、発表希望月の 3 ヶ月前の 10 日 (3 月発表希望であれば 12 月 10 日) までに日本英語教育史学会例会担当へお申し込みください。

Email: reikai@hiset.jp

## 》 英語教育史フォルダ

- ◆若林 俊輔 (著)、若有 保彦 (編) 『若林俊輔先生著作集②：目的論・学習者論・音声指導・文字指導他』一般財団法人 語学教育研究所、定価 1,200 円 (税込)、2019 年 11 月刊行予定  
本書は、本会の会員でもあった若林俊輔先生の英語教育目的論、学習者論、視聴覚的補助手段、音声指導、フォニックス指導、文字指導、英語 4 技能指導 (総論) に関する論考 42 本を収録したもの。全 7 章で構成され、各章について若林先生の教え子 6 名が解説を行っている。  
\*書店での販売はしていません。購入を希望される方は語学教育研究所のホームページ (現在準備中) から注文できます。送料込みで 1 部 1,400 円にて販売予定です。

- ◆筑波大学附属中学校の肥沼則明先生より同校「英語科教官列伝」公開のお知らせ  
(<https://norysjhsenglishteaching.jimdofree.com/英語科教官列伝/>)

筑波大学附属中学校の肥沼則明先生から、ご自身が個人的に作成・公開されているウェブサイト、同校の「英語科教官列伝」を追加した旨の情報をお寄せいただきました。以下はウェブサイトからの引用です。

筆者が勤務する筑波大学附属中学校は、明治 35 (1888) 年に高等師範学校附属尋常中等科として設立され、東京高等師範学校附属中学校、東京文理科大学東京高等師範学校附属中学校、東京教育大学附属中学校と名称を変えながら、昭和 53 (1978) 年より現名称となった国立大学の附属学校です。現在、母体の大学は茨城県つくば市にありますが、本校は東京都文京区にあります。(詳細は本校のホームページを参照ください。)

開校 140 年余りを数える学校で、初期の頃から英語教育を積極的に行っていたので (なんと太平洋戦争末期に「敵性語」として禁止されたときも教えられていたそうです)、過去に多くの教師が本校の英語教育に携わっています。普通の学校であればそんなに古い時代の記録はあまり残っていないでしょうが、本校には過去 140 年間の学校の記録が比較的多く残っており、さらに教官が書いた書籍や卒業生が書いた書物から得られる情報を合わせると、それぞれの時代の英語教育の様子が見えてきます。

そこで、ここでは歴代の英語科 OB 教員 (常勤のみ) を紹介します。中には日本の英語教育史上で有名な先生や一般の人でも知っている有名な先生もいらっしゃいます。また、本校には早くから外国人講師もいたようで、教員名簿にその名前が残っています。ここではその中の戦前の講師のみ紹介します。中には歴史上有名なあの人や英英辞典の編纂に尽力したあの人もあります。



なお、本記事は、本校の元副校長・山口正先生 (社会科) が平成 19 (2007) 年 6 月 30 日から発行し続けてくださっている『附属中学・高校 卒業生列伝』 (令和元年 10 月 5 日現在で 644 号) という A4 判 1 枚の新聞のスピンオフ作品である『附属中学校 教官伝・英語科編』 (『卒業生列伝』第 125 号～第 146 号) を元にしてあります。上記リンク先に原著が PDF であります。

---

## 日本英語教育史学会 第 275 回 研究例会

日 時 : 2019 年 11 月 16 日 (土) 14:00~17:00

場 所 : 真宗教化センター しんらん交流館  
(京都市下京区諏訪町通六条下ル上柳町 199)

研究発表① 「アジア太平洋戦争下の雑誌『語学教育』について」

河村 和也 (広島県立大学准教授)

【概要】1942 (昭和 17) 年 2 月, 英語教授研究所は創設以来刊行していた *The Bulletin* の誌名を変え『語学教育』第 180 号として発行した。翌月には, 研究所自身の名称も語学教育研究所に変更している。『語学教育』は 1973 (昭和 48) 年 1 月まで発行が続けられたが, *The Bulletin* が名著普及会により 1985 年に復刻されたのとは比べると, その全容が明らかになっているとは言い難い。本発表では, アジア太平洋戦争下に刊行された 18 冊, すなわち 1942 (昭和 17) 年 2 月発行の第 180 号から 1945 (昭和 20) 年 1 月発行の第 197 号に焦点を当て, その内容上の特徴を考察してみたい。

研究発表② **Benjamin Franklin's alphabet reform proposal and its influence on Noah Webster's American English dictionary and textbooks**

Judy Yoneoka (Professor, Kumamoto Gakuen University)

【概要】Noah Webster is generally credited for creating the concept of “American English” through his dictionaries and blue-backed spellers, which have come to enjoy immense popularity both in the United States and abroad. His works were widely used in Japan as well. However, Webster was highly influenced by the spelling and alphabet reforms proposed by printer, inventor and politician Benjamin Franklin. The goals of this presentation are twofold: 1) it attempts to gauge the influence of Benjamin Franklin's alphabet reform on Webster's work by reviewing Franklin's original proposal and tracing the transfer of his work to Webster through analysis of their written correspondence, consisting of 8 letters between 1786-1789; 2) it reviews Webster's experiments with revised spelling in works published around the time of Franklin's death, when he was most directly influenced by Franklin's alphabet reform, and follows the changes in Franklin's influence over several editions of Webster's dictionary, even after the latter's death in 1843.

参加費 : 無料

問合せ : 日本英語教育史学会例会担当 ([reikai@hiset.jp](mailto:reikai@hiset.jp))

- ◆例会終了後に懇親会を行います。こちらにも奮ってご参加ください。
- ◆行楽シーズンですので、宿泊をご予定の方は、お早めに各自でご手配ください。

★会員外の方の研究例会へのご参加を大いに歓迎いたします。

【会場案内】 (東本願寺 website: <http://www.higashihonganji.or.jp/about/access/pdfs/map.pdf> より)



【交通案内】

- ・ JR 京都駅中央改札口より徒歩 12 分
- ・ 市営地下鉄烏丸線・五条駅 8 番出口より徒歩 3 分
- ・ 烏丸六条バス停より徒歩 1 分

**EDITOR'S BOX** 今年は昨年よりも自然災害による被害が少なくてよかったと思っていたら、最後に大きな台風がやってきて本当にショックです。被災されたみなさまに心よりお見舞い申し上げます。(若)

© 日本英語教育史学会会報編集部 (秋田大学 若有研究室 [geppo@hiset.jp](mailto:geppo@hiset.jp))